

学内広報

2002 . 6 . 12
東京大学広報委員会

総合研究博物館特別展 「北の異界—オホーツクと永民文化」展



ラッコ牙偶

常呂川河口遺跡15号竪穴出土 8 - 10世紀 長6 . 3 cm
常呂町埋蔵文化財センター蔵

(7 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
評議会 (6 月 4 日 (火)) 承認事項、大学 院学生学術研究奨励金の採択決まる	
部局ニュース	4
「生物情報科学学部教育特別プログラム設 立記念シンポジウム」が開催された、植物 園で学生・教職員の交歓会が開かれる、附 属牧場で中学生の体験学習実施、陸上部21 年振りに1部昇格、教育学研究科で外国人 留学生懇談会開かれる、総合研究博物館特 別展「北の異界—オホーツクと氷民文化」 展、内覧会が開かれる	
キャンパスニュース	8
平成14年5月1日現在学生数、大学院関係	

統計

掲示板	30
東京大学学術研究奨励資金による国際交流 助成事業の募集について、アジア大学演習 林シンポジウム、大学院経済学研究科修士 課程の学生募集について、教養学部美術博 物館のお知らせ、「教養学部報」第457 (6 月 5 日) 号の発行、東京大学地震研究所一 般公開と公開講義、第7回東京大学史料編 纂所史料学セミナー、「GISで環境学習！」 シンポジウム、夏季データベース講習会のお 知らせ	
広報委員会	35
事務連絡 (人事異動 (教官))	36
訃報 (高橋詢名誉教授、中野実助教授) ...	37
淡青評論「大型基礎研究の行方」	40

≡ 一般ニュース ≡

評議会（6月4日（火））承認事項

東京大学の大学院等の専攻及び講座等に関する規則の一部改正

協力講座の新設・廃止等、併せて規定の整備を行うことに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成14年6月4日から施行し、改正後の東京大学の大学院等の専攻及び講座等に関する規則の規定は、平成14年4月1日から適用する。

平成15年度予算の概算要求に関する基本方針

平成15年度予算の概算要求に当たっては、第2期科学技術基本計画や大学審議会の答申を踏まえ、「知の創造と継承」を使命とする大学として、「挑戦の精神」と「高い志」を備えた人材を養成すべく教育の充実を図るとともに、社会の期待に応えるべく高度な学術研究を推進することを基本としつつ、設置形態も含め国立大学の役割が厳しく問われている現状、及び我が国の財政が極めて危機的状況にあることに配慮しつつ、下記の方針に沿って、要求事項を厳選して重点的に要求を行うものとする。

特に、キャンパスの整備については、「東京大学キャンパス計画の概要」（平成4年6月9日評議会決定）の趣旨を踏まえ、三極構造構想のより一層の推進を図るとともに、既存キャンパスの有効活用など大学全体としての総合的、統一的な再配置及び再開発の更なる推進に向けて努力する。

ア．大学院の充実強化

大学院の充実強化については、教育研究上並びに社会的要請の強い分野について要求する。また、学生定員については、教育研究上の諸条件等を総合的に考慮のうえ所要人員を要求する。

イ．学部学科の改組等

学部学科の改組については、既存組織の見直しを行い、教育研究上の必要性や社会的要請が極めて強いものを要求し、また、学生の入学定員の改訂については、原則として抑制する。

ウ．研究所の改組等

研究所の改組等については、組織・機構の多角的な点検・評価と見直しを行うとともに大学としての適正規模及び学術研究の進展、社会的要請等を勘案して行うこととし、既存の研究部門の転換・再編成についても積極的に検討する。

エ．講座・研究部門の増設等

「国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令」、「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令」の廃止に伴う、定員・機構に係る概算要求事項の弾力化に関するものを除いた講座・研究部門の増設等については、教育研究上の要請と社会的要請の強い分野を要求する。なお、研究部門については適切な存続期限を付することを併せて検討する。

オ．附属施設の新設・整備

附属研究・教育施設等の新設・整備については、学内における検討状況等を踏まえ、教育研究上の要請と社会的要請の極めて強いものとし、合理的な整理・再編成及び共同利用化等に関する熟度・緊急度等を勘案し要求する。

カ．重要学術研究の推進

大型プロジェクト研究等については、継続事業に係るものを優先するが、新規事業については、新たな発展の源泉となる知識の創出等につながる分野等の学術研究が推進できるものを要求する。

キ．国際交流の整備等の推進

学術研究・教育の国際化に対応し、かつその推進を図るため、国際的な学術交流・共同研究、外国人研究者・留学生の受入れ並びに宿泊施設等の所要の整備・充実に促進する。

また、民間資金の有効な活用を図る教育研究協力体制の工夫・整備等を推進する。

ク．社会連携の強化

地域社会・経済社会との連携・協力関係を深めることにより、大学の社会的貢献を増進する。特に産業界との間の連携を推進し、大学の優れた研究成果を社会に還元するとともに、大学自身の研究の活性化を図るために事務機構の改組を含め、全学的な窓口の整備を行う。

ケ．情報基盤の整備充実等

高度情報通信社会に対応し、情報の創造・蓄積・発信により大学の教育・研究の高度化を図るとともに、セキュリティ対策等の情報基盤の重点的な整備を推進する。

また、附属図書館の重点的な整備・充実に図る。

コ．附属病院の整備

附属病院については、病院マネジメントの促進を図り、社会的要請に適切に対応した大学病院の教育・研究・診療体制及び看護師等医療技術職員の整備・充実に推進する。

サ．基幹的教育研究経費の充実

教育研究基盤校費等大学における基幹的教育研究経費

の質的充実を図るとともに、大型特殊装置の運転費等についてその実態に即した経費の充実を図る。

シ．教育・研究用機器の整備

教育・研究用機器の整備については、萌芽的教育研究用機器を含め、真に必要なものについて共同利用化・管理運営・建物等の関連性を配慮のうえ要求する。

また、電子計算機の整備についても、目的・規模・運用の見通しなどを勘案のうえ要求する。

ス．事務機構要員等の確保

事務機構の整備等については、事務組織の抜本的な見直しや、IT化による事務手続の効率化を図ることを基礎として、一元化・集中化が可能な事務の集約化や合同化等により、簡素化・効率化を図るとともに職員の再配置等を行い、国際化・情報化等新たなニーズに対応した大学運営の整備強化を図るための要求を行う。

セ．学生及び教職員の厚生施設等の充実

学生・教職員の厚生施設等については、用地及び設置後の管理運営等を考慮のうえ、集約化も含めた整備を図るなど学生・教職員のための環境整備を推進する。

ソ．環境安全体制の整備等

法令等により規制を受ける危険廃棄物の適切な処理、RI施設の安全管理等については、これに必要な施設・設備・要員の整備を図るとともに、教職員・学生についての特別健康診断等必要な経費を要求する。

タ．大学環境・建物等施設の整備

建物等施設の整備については、三極構造構想等キャンパスの整備計画に基づき年次計画に沿って整備を行うもの、及び新たな教育研究組織に必要な施設などについて、既存施設の点検評価、維持管理・運営体制の検討状況等を勘案のうえ、施設の効率的な活用に配慮するとともに、文部科学省が策定した「国立大学等施設緊急整備5か年計画」に則り、真に必要とされる緊急性の高いものを重点として要求する。

大学院学生学術研究奨励金の採択決まる

本学大学院学生の国外での研究活動に必要な助成を図るため「東京大学大学院学生学術研究奨励金」が昭和58年度から設けられているが、このほど学術研究奨励資金実施委員会において、平成14年度前期（6～11月）応募者の審査が行われ、54件の実施計画が採択された。応募者は146名であった。なお、研究科別採択状況は以下のとおりである。

研究科名	応募者数	採用者数	主な渡航先
人文社会系研究科	6	4	イギリス、インドネシア、シンガポール、カナダ
教育学研究科	3	2	オランダ、アメリカ
経済学研究科	5	3	スペイン・オーストリア、フランス、中国
総合文化研究科	27	7	フランス、スイス、イギリス、中国、カナダ、韓国
理学系研究科	16	6	アメリカ、イギリス、スペイン、スイス、ギリシャ、
工学系研究科	14	7	インド、スウェーデン・オランダ、アメリカ、台湾、イタリア、ドイツ、フランス
農学生命科学研究科	37	9	カナダ、フランス・スペイン、ノルウェー、アメリカ、ドイツ、マレーシア、オーストラリア
医学系研究科	4	4	フランス、タイ、オランダ
薬学系研究科	17	4	アメリカ、ドイツ、フランス
数理科学研究科	3	2	中国
新領域創成科学研究科	12	4	アメリカ、スペイン、カナダ、フランス
情報理工学系研究科	2	2	スイス、アメリカ

≪ 部局ニュース ≫

「生物情報科学学部教育特別プログラム設立記念シンポジウム」が開催された

昨年10月理学部に文部科学省科学技術振興調整費（新興分野人材養成）による生物情報科学学部教育特別プログラムが設置された。これはバイオインフォマティクスの人材養成を目的とした教育研究組織であるが、本年4月よりその教育研究活動を本格的に開始したことを記念して、また、本プログラムの活動を広く知ってもらうことを目的として、上記のシンポジウムが平成14年5月22日に弥生講堂にて開催された。

シンポジウムに先立ち、午後1時半より設立記念式典が開かれた。本プログラム代表の佐藤勝彦理学系研究科長・理学部長からの挨拶、本プログラム実施委員の西郷薫、萩谷昌己両教授からの本教育プログラムの趣旨、設立経緯、カリキュラム等の説明の後、小間篤（本学副学長）、田中敏（文部科学省ライフサイエンス課長）、金久實（京都大学バイオインフォマティクスセンター長）の3名の来賓より祝辞があった。

この式典の後、引き続いて、午後2時よりシンポジウムが開催された。まず、最初に、本プログラムに携わっている5名の教官（高木利久教授、横山茂之教授、森下真一助教授、南康文特任教授、黒田真也特任助教授）よりそれぞれの研究やその将来展望についての発表があり、その後、松原 謙一氏（奈良先端科学技術大学院大学客員教授、大阪大学名誉教授）による「分子生物学の歩みと生物情報科学への期待」と題する招待講演が行われた。

参加者は来賓を含む招待者および本プログラム関係者が約90名、一般参加者が約170名、合計約260名と大変多く、この分野への関心の高さが伺われた。なお、本プログラムの詳しい内容は、下記のホームページから見ることができる。

<http://www.bi.s.u.tokyo.ac.jp>



プログラム代表の佐藤理学系研究科長・理学部長の挨拶



小間副学長の祝辞



松原先生の特別招待講演



会場の様子（松原先生の講演）

（大学院理学系研究科・理学部）

植物園で学生・教職員の交歓会が開かれる

大学院理学系研究科・理学部の、恒例行事となっている学生と教職員の交歓会が平成14年5月20日（月）午後、小石川の理学系研究科附属植物園において開催された。

当日は心配された雨も昼前にはあがり、新緑の園内にはおよそ600人程の学生・教職員が集まった。

佐藤研究科長、邑田植物園長の挨拶に始まり、岡村評議員の発声で交歓会が開始された。

学生・教職員はもとより名誉教授の方々にもご参加いただき、芝生には飲み物などを手に学科・専攻を越えて語り合う懇親の輪がいくえにも広がり新緑を満喫しながら、和気藹々とした楽しい交歓の一時を過ごした。



交歓会の風景

（大学院理学系研究科・理学部）

附属牧場で中学生の体験学習実施

大学院農学生命科学研究科附属牧場では県内の「ひたちなか市立勝田第二中学校」の依頼により平成14年5月17日（金）体験学習を行った。

当日は朝からくもり空であったが午前9時30分に担当教諭、新1年生38名を含め総勢41名がバスで到着。事前に担当教諭との打合せのとおり、汚れてもよい服装、長



乗馬のブラッシング

靴履き等のいでたちで澤最牧場長より東大牧場の意義、役割等を説明、注意事項の話があった後、現場に向かった。

まず始めに牛舎に集まり、担当職員の指導のもとに全員が乳牛の搾乳、牧場長自ら指導のもとに牛の第1胃収縮運動音を聴診、反芻の様子を観察、餌やり等を各人が



牛の第一胃収縮運動音を聴診



畜舎の清掃



餌やり

行った。その後、小動物（山羊、豚、緬羊）の世話をするグループと馬の世話をするグループとに班分けをし、それぞれ畜舎の清掃、餌やり、乗馬のブラッシング等、各担当職員の指示のもと、動物と触れ合いながら体験し、午前中の予定はアツという間に終了した。

昼食をはさんで午後1時より午前の班と交代し同様の作業や、牛舎内では糞の清掃作業も体験してもらった。また午前中に行った搾乳をもう一度やりたいと申し出た生徒（比較的多かった）には再度体験してもらった。

最後は馬を引いたり、乗馬の体験もしてもらい、予定時間を30分超過し、午後2時30分に無事終了した。気になった天気も乗馬の時ちょっと雨がパラパラした程度であった。最初は動物に直接触れることが初めての生徒が多かったようで逃げ腰だったが、段々と慣れてきて終盤は楽しんでいただけたようだ。

牧場は、動物の餌である牧草収穫作業等におわれ、大変忙しい時期であったが職員一同皆親切に指導にあたった。

担任教諭より牧場の多忙な時期に、みなさんの協力で学校では普段出来ない貴重な体験を生徒にさせる機会を与えてくれたことへの謝辞があった。

最後に牧場としては、今後とも機会があればこのような地域住民とふれあっている場としたいと考えている。



乳牛の搾乳

（大学院農学生命科学研究科・附属牧場）

陸上部21年振りに1部昇格

正月の箱根駅伝は、関東学生の駅伝です。その上位に入る駒沢大や神奈川大が関東学生陸上では2部校、ということからもわかるように関東の1部（16校が1部校、残り60数校が2部校、毎年2校入れ替え）に上がるのは大変です。東大は1977年に昇格し1981年に降格して以来、1部昇格はありません。

さて今年の関東学生陸上は平成14年5月12、16、18日に国立競技場で行われました。今年は出口主将を中心にフィールドが強いので、あわよくば1部という気持ちで

臨みました。そして1日目から、出口が円盤投げで39m79の自己ベストで4位、副将藤原が走り高跳び2m00で2位、競歩で春木が3位、熊丸が5位になるなどで30と1/3点を獲得し首位にたてました。これで勢いに乗れ、本当に1部に行くぞという雰囲気になってきました。2日目以降もその勢いに乗って、やり投げで岡野が66m41の大幅自己新で優勝。砲丸投げも3位。川添が棒高跳び4m90で2位になるなど着実に加点し、トータル64と1/3点を獲得し城西大に続いて2部で総合2位に入り、慶応大、東学大に入れ替わり1部昇格となりました。またフィールド優勝しました。

21年振り1部復帰というこの結果は、全天候舗装され



投擲4種目に入賞した出口主将



走り高跳び2mで2位の藤原



21年振りの笑顔

た第一グラウンドがあり、トレ体などにウェイト設備もあり、練習環境に恵まれていることが一つの大きな理由だと思います。またOB会が充実していることもあります。1981年の2部降格は私が4年生の時で、そのことを忘れずにきましたから、1部昇格を一番喜んでいるのは、今は監督である私かもしれません。お世話になった多くの方々に感謝し、さらに1部残留を目指していきますので、よろしく願います。

陸上運動部監督 八田秀雄（大学院総合文化研究科）

教育学研究科で外国人留学生懇談会開かれる

恒例の外国人留学生懇談会が、平成14年5月22日(水)5時30分より、教育学部ラウンジにおいて行われた。

現在、教育学研究科には9ヶ国、71名の外国人留学生が在籍している。本懇談会には、留学生、チューター、教官、職員を含め約80名が参加し、教育学部の小さなラウンジは熱気につつまれた。

留学生担当教官が進行をつとめ、渡部研究科長の挨拶に始まり、本年度4月入学の留学生の紹介とスピーチが行われた。また、6月に国際交流室を設置し、留学生に談話や学習の場を提供することが発表され、強い関心を呼んだ。その後、留学生の歌や踊りなどの余興で、会は最高の盛り上がりを見せた。教官による余興も飛び出した。あまりに短く感じられた2時間を惜しみつつ、和やかな雰囲気の中で閉会となった。



懇談会の全景



教官と学生

(大学院教育学研究科・教育学部)

総合研究博物館特別展「北の異界 オホーツクと氷民文化」展、内覧会が開かれる

総合研究博物館春季特別展示「北の異界 オホーツクと氷民文化」展(東京大学常呂実習施設・北海道常呂町共同展示)開催に先立ち、平成14年5月16日に開かれた内覧会・レセプションには、井原久敏北海道常呂町長、林俊明常呂町議会議長、宮島洋副学長ほか約80名が出席。

井原町長はあいさつで、「東京大学常呂実習施設に赴任された歴代の先生方は、地域における大学の役割を重視され、町総合計画・町史編纂・生涯教育などさまざまな分野において、本町のまちづくりにあたったの指針策定等に、多大な貢献をされてきた。この町の大きな羅針盤となっていたに衷心より厚く感謝を申し上げる」などと話した。

東京大学コレクション 「北の異界 オホーツクと氷民文化」展開催概要

会場：総合研究博物館(本郷キャンパス)1階展示ホール

主催：総合研究博物館

共催：大学院人文社会系研究科・北海道常呂町

期間：平成14年5月18日(土)～7月14日(日)月曜日休館

開館時間：午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

入館：無料

問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600

ホームページ：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>



内覧会の様子

(総合研究博物館)

≡ キャンパスニュース ≡

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年5月1日現在の学生数は次のとおりである。

平成14年5月1日現在学生数
学部学生15,370人、大学院学生11,811人、研究生等908人

平成14年5月1日現在 学部学生・研究生・聴講生数調査

学部・課程別 入進学 年度別 性別	在籍者												在籍のうち、外国人学生及び休学者 (再掲)				外国人学生 (再掲)		聴講生		
	平成14年度		平成13年度		平成12年度 (以前)		平成11年度		平成10年度 以前		小計		合計		外国人学生 (再掲)		外国人学生 (再掲)		聴講生		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	計		計		計		計		計		計		計		計		計		計		
前期課程・教養学部	2,686	2,707	592	423	27	-	-	-	-	-	5,816	1,245	7,061	107	40	147	31	3	34	-	-
法学部	475	131	501	104	416	66	-	-	-	-	1,392	301	1,693	11	6	17	22	6	28	-	-
後期課程 医学科	87	16	83	21	83	18	83	22	19	3	355	80	435	0	0	0	6	0	6	40	19
健康科学・看護学科	28	17	23	18	7	2	-	-	-	-	58	37	95	1	0	1	0	1	1	15	25
工学部	835	70	878	63	177	8	-	-	-	-	1,890	141	2,031	54	10	64	27	4	31	20	6
文学部	247	136	268	111	154	50	-	-	-	-	669	297	966	5	3	8	31	14	45	2	10
理学部	253	39	300	29	53	4	-	-	-	-	606	72	678	6	2	8	12	0	12	0	2
農学部	197	64	220	66	34	1	-	-	-	-	451	131	582	0	1	1	6	1	7	19	8
経済学部	19	12	17	15	21	11	21	7	1	0	79	45	124	0	0	0	0	0	0	2	0
教養学部	317	53	306	49	125	15	-	-	-	-	748	117	865	8	11	19	15	2	17	-	-
教育学部	137	53	136	50	53	22	-	-	-	-	326	125	451	3	8	11	12	9	21	8	8
薬学部	71	30	52	38	17	10	-	-	-	-	140	78	218	1	2	3	5	3	8	6	5
小計	2,724	650	2,838	591	1,142	208	104	29	20	3	6,828	1,481	8,309	89	43	132	137	41	178	114	84
合計	5,410	1,276	5,545	1,183	1,565	235	104	29	20	3	12,644	2,726	15,370	196	83	279	168	44	212	114	84

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。
2. 平成12年度(以前)については、医学部医学科・農学部獣医学課程は平成12年度入進学者のみ、他の学部学科は平成12年度以前の入進学者数を示す。

平成14年5月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別	在籍者												在籍者のうち外国人学生(再掲)				在籍者のうち外国人(再掲)				大学院外国人		大学院研究生		特別研究生															
		修士課程			博士課程			後期課程			合計			修士課程		博士課程		合計		修士課程		博士課程		合計		修士課程		博士課程		合計											
		14年度		13年度		12年度		14年度		13年度		12年度		11(6)年度以前		合計		14年度		13年度		12年度		合計		14年度		13年度		12年度		合計									
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
人文社会系	入道学	103	67	95	69	62	32	260	168	428	69	39	73	43	65	49	130	109	337	240	577	1,005	22	32	30	49	133	22	11	77	73	183	41	44	85	10	11	21	0	0	0
	社会学	25	27	25	25	6	5	56	57	113	19	17	11	23	20	11	26	36	76	87	163	276	5	15	10	14	44	3	3	10	28	44	4	19	23	5	8	13	1	0	1
法学政治学	社会学	56	23	49	22	12	3	117	48	165	13	7	15	7	12	4	20	10	60	28	88	253	10	4	7	4	25	6	1	4	6	17	13	14	27	-	-	-	-	-	-
	政治学	53	8	47	10	17	5	117	23	140	28	4	26	6	29	4	43	19	126	33	159	299	7	4	8	6	25	3	4	25	15	47	5	1	6	4	1	5	0	0	0
経済学	経済学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	総合文化	146	80	145	66	42	37	333	183	516	94	69	94	74	103	72	156	159	447	374	821	1,337	16	33	49	66	164	26	24	114	122	286	18	25	43	18	8	26	3	3	6
理学系	理学系	308	60	276	92	28	10	612	162	774	176	31	159	38	172	31	88	23	595	123	718	1,492	9	7	23	12	51	13	4	16	6	39	11	1	12	22	6	28	35	3	38
	工学系	653	74	703	83	94	20	1,450	177	1,627	169	24	269	57	301	48	165	37	904	166	1,070	2,697	128	43	275	77	523	21	8	44	8	81	57	13	70	18	6	24	7	0	7
農学生命科学・獣医学	農学	208	112	202	111	18	9	428	232	660	97	47	113	31	126	52	70	31	406	161	567	1,227	18	21	66	47	152	19	10	19	8	56	11	10	21	8	8	16	2	2	4
	生命科学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	10	18	8	16	8	23	3	74	31	105	105	-	-	15	8	23	-	-	1	1	2	3	1	4	10	12	22	2	0	2
医学系	医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	131	67	142	60	119	47	110	44	556	237	793	793	-	-	37	47	84	-	-	14	13	27	17	10	27	3	1	4	27	6	33
	保健学	16	42	17	39	6	8	39	89	128	15	22	8	23	7	21	1	10	31	76	107	285	8	8	9	8	33	3	11	1	9	24	2	6	8	1	3	4	0	0	0
薬学系	薬学	12	12	13	5	2	0	27	17	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	3	0	-	-	3	1	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬学系	69	20	57	29	6	1	132	50	182	40	9	38	15	36	13	7	2	121	39	160	342	3	0	8	8	19	4	1	4	3	12	0	4	4	4	0	4	3	1	4
数理学系	数理学	39	3	38	2	7	2	84	7	91	26	1	19	0	22	2	12	0	79	3	82	173	5	4	7	1	17	1	0	2	0	3	1	0	1	21	1	22	1	1	2
	新領域創成科学	242	82	293	85	26	14	561	181	742	82	20	92	26	-	-	-	-	174	46	220	962	33	15	18	5	71	10	3	1	0	14	10	2	12	9	3	12	0	1	1
情報理工学系	情報理工学系	177	7	151	6	-	-	328	13	341	35	2	49	2	-	-	-	-	84	4	88	429	31	6	19	2	58	3	0	2	0	5	12	2	14	0	0	0	0	0	0
	学際情報	34	16	31	18	6	8	71	42	113	15	11	-	-	-	-	-	-	15	11	26	139	4	9	3	1	17	3	2	0	1	6	1	1	2	0	0	0	0	0	0
合計	合計	2,141	633	2,142	662	332	154	4,615	1,449	6,064	1,024	380	1,126	413	1,028	362	910	504	4,088	1,659	5,747	11,811	302	201	584	355	1,442	138	82	336	293	849	206	153	359	133	68	201	81	17	98

備考 1. 経済学研究科における5年一貫博士課程の平成5年度以前入学者については、博士後期課程欄の()内の入学年度の欄に示す。

2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成10年度以前の入学数を示し、外数である。

3. 大学院研究生、特別研究生欄の()内は、外国人を示し内数である。

大 学 院 関 係 統 計

- (1) 平成 1 4 年度入学者数
- (2) 平成 1 3 年度修了者数
- (3) 平成 1 3 年度休学者数
- (4) 平成 1 3 年度留学者数等
- (5) 平成 1 3 年度研究指導委託・受託学生数
- (6) 平成 1 3 年度学位論文審査協力依頼件数
- (7) 年度別学位授与状況 (課程博士)
- (8) 年度別学位授与状況 (論文博士)

(総 務 部 学 務 課)

(1) 平成14年度 大学院入学者数

平成14年4月25日

研究科(学府)	入学定員		受入予定人員		入学者				修 士				博 士				合 計
	修 士	博 士	修 士	博 士	日本入		留學生		日本入		留學生		日本入		留學生		
					本 学	他 大 学	本 学	他 大 学	本 学	他 大 学	本 学	他 大 学	本 学	他 大 学	本 学	他 大 学	
人文社会系研究科	202	107	212	131	101	50	19	170 (19)	93	4	7	4	108 (11)	278 (30)			
教育学研究科	42	27	54	35	20	23	9	52 (9)	31		3	2	36 (5)	88 (14)			
法学政治学研究科	143	60	143	60	43	32	4	79 (4)	15	2	3		20 (3)	99 (7)			
経済学研究科	108	54	108	54	31	26	4	61 (4)	28	2	2		32 (2)	93 (6)			
総合文化研究科	253	167	253	167	100	105	21	226 (21)	120 (1)	23	16	4	163 (20)	389 (41)			
理学系研究科	418	215	418	265	194	169	4	368 (5)	185	20		2	207 (2)	575 (7)			
工学系研究科	546	296	704	382	480	209	30	727 (38)	112	32	27	22	193 (49)	920 (87)			
農 学	291	142	344	172	204	98	18	320 (18)	85	35	16	8	144 (24)	464 (42)			
命 学									8	12		5	25 (5)	25 (5)			
獣医学																	
医 学									82	101	1	14	198 (15)	198 (15)			
医学系研究科	50	23	59	27	22	30	6	58 (6)	27	3	4	3	37 (7)	95 (13)			
保健学	20		20		8	15	1	24 (1)						24 (1)			
医科学	81	36	81	46	76	13		89	43	4	1	1	49 (2)	138 (2)			
薬学系研究科	53	32	53	32	24	13	1	42 (5)	24		3		27 (3)	69 (8)			
数理科学研究科	289	129	364	155	154	161	7	324 (9)	84 (1)	10	3	5	102 (8)	426 (17)			
新領域創成科学研究科	129	50	167	64	146	13	7	184 (25)	27	3	4	3	37 (7)	221 (32)			
情報理工学系研究科	37	16	48	20	13	31	6	50 (6)	21	1	3	1	26 (4)	76 (10)			
学際情報学府	2,662	1,561	3,028	1,821	1,616	988	19	2,774 (170)	985 (2)	252	93	74	1,404 (167)	4,178 (337)			
合 計																	

(注) () は留学生数、 [] は大学院学則第16条第2項第4号及び第5号による入学者数を示し、内数である。

(2) 平成13年度 修了者数

平成13年4月1日から平成14年3月31日までの本学大学院研究科(学府)別の修士課程及び博士課程修了者数は、下表のとおりである。

平成14年4月15日

区 分	修 士 課 程				博 士 課 程				合 計			
	総 数	男女別内訳		うち 外国人	総 数	男女別内訳		うち 外国人	総 数	男女別内訳		うち 外国人
		男	女			男	女			男	女	
人文社会科学系研究科	101	60	41	11	30	21	9	10	131	81	50	21
心理学	5	3	2		2	2			7	5	2	
社会学	9	7	2	1	2	1	1		11	8	3	1
社会心理学	3		3	1					3		3	1
社会情報学	7	5	2	2	3	2	1	1	10	7	3	3
教育学研究科	44	23	21	3	4	2	2	1	48	25	23	4
法学政治学研究科	87	59	28	11	7	6	1	5	94	65	29	16
経済学研究科	45	41	4	5	7	7		4	52	48	4	9
一分区					2	2			2	2		
総合文化研究科	201	124	77	21	63	45	18	13	264	169	95	34
理学系研究科	360	298	62	12	188	152	36	12	548	450	98	24
工学系研究科	804	742	62	82	272	247	25	87	1,076	989	87	169
農学生命科学研究科	307	201	106	20	113	76	37	28	420	277	143	48
獣医学					23	16	7	4	23	16	7	4
医学系研究科					153	115	38	19	153	115	38	19
保健学	53	23	30	11	13	2	11	1	66	25	41	12
医科学	15	8	7	1					15	8	7	1
薬学系研究科	81	56	25	3	40	36	4	2	121	92	29	5
数理学系研究科	42	38	4	4	27	25	2	3	69	63	6	7
新領域創成科学研究科	87	81	6	6					87	81	6	6
生命科学	56	38	18	8					56	38	18	8
環境学	119	92	27	7					119	92	27	7
国際協力学	18	10	8	1					18	10	8	1
学際情報学府	38	20	18	4					38	20	18	4
合 計	2,482	(+12)	(+15)	(+20)	(-19)	(-20)	(+1)	(-5)	3,436	(-23)	(+16)	(+15)
		1,929	553	214	954	760	194	191		2,689	747	405

(注) ()は昨年度との比較増減を示す。

(4) 平成13年度 留学者数等

平成14年4月15日

研究科(学府)	留 学		在学身分のままの海外航		研究指導の委託		備考
	修士	博士	修士	博士	(外国の大学)	博士	
人文社会系研究科	1	3				3	
教育学研究科							該当なし
法学政治学研究科		1					
経済学研究科						2	
総合文化研究科		7		18		7	
理学系研究科					3	6	
工学系研究科	1	3				7	
農学生命科学研究科			3	2	2	1	
医学系研究科				1		6	
薬学系研究科						1	
数理科学研究科						6	
新領域創成科学研究科	4			1	1		
情報理工学系研究科						1	
学際情報学府							該当なし
計	6	14	3	22	6	40	

(5) 平成13年度 研究指導委託・受託学生数

平成14年4月15日

研究科(学府)	研究指導委託学生数										研究指導受託学生数										
	国内					外国					国内					外国					
	国立		公立		私立	研究所等		修士		博士	国立		公立		私立	国立		公立		私立	
	修士	博士	修士	博士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科										3											
教育学研究科																					1
法学政治学研究科																					
経済学研究科									2												
総合文化研究科	1	1				1	2		7	2	10										2
理学系研究科	3	9				7	16	3	6	13	31										4
工学系研究科	5	4				1	1		7	6	13										1
農学生命科学研究科	1	2					7	2	1	3	10										3
医学系研究科		14					16		6	41	33										7
薬学系研究科	3	3					7		1	5	11										4
数理科学研究科	1	1							6	7	1										1
新領域創成科学研究科							2	1		2	3										3
情報理工学系研究科								1		2	4										4
学際情報学府																					
計	14	34			1	5	11	6	40	31	132	13	55	8	3	2	7	3	2	26	67

研究指導委託（平成13年度）

実施研究科等	相手方大学院・研究所等名	学生人数	実施研究科等	相手方大学院・研究所等名	学生人数
人文社会系研究科	中央研究院中国文哲研究所（中国（台湾））	1	理学系研究科	国立環境研究所	1
	パリ第1大学（フランス）	1		国立遺学研究所	1
経済学研究科	コペンハーゲン大学歴史研究所（デンマーク）	1	理学系研究科	核融合科学研究所	1
	ロシア大学（ロシア）	1		国立極地研究所	1
総合文化研究科	プリンストン大学（アメリカ）	1	宇宙科学研究所	1	
	北海道大学大学院地球環境科学研究科	1	高エネルギー加速器研究機構	1	
	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	1	パーデュー大学（アメリカ）	1	
	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所	1	ブラウン大学（アメリカ）	2	
	理化学研究所	1	ハーバード大学（アメリカ）	1	
	森林総合研究所	1	シカゴ大学（アメリカ）	1	
	コーネル大学（アメリカ）	2	イリノイ大学（アメリカ）	1	
	イエール大学（アメリカ）	1	ゴールドスプリングハーバー研究所（アメリカ）	1	
	パリ第7大学（フランス）	1	カーネギーメロン大学（アメリカ）	1	
	社会科学高等研究院（フランス）	1	ルイパスツール大学（フランス）	1	
	チュロロンコン大学（タイ）	1	工学系研究科	筑波大学物質工学系	1
	ダカール・シエイク・アタ・ジョップ大学（セネガル）	1		東京農工大学工学部	1
理学系研究科	北海道大学大学院地球環境科学研究科	1		電気通信大学電気通信学部	1
	東北大学大学院理学研究科	1		横浜国立大学工学部	3
	筑波大学大学院数理物質科学研究科	1		富山大学工学部	1
	埼玉大学大学院理工学研究科	1		広島大学大学院工学系研究科	2
	東京工業大学大学院理工学研究科	2		北九州市立大学国際環境工学部	1
	東京工業大学大学院情報理工学研究科	3		国立情報学研究所	1
	電気通信大学大学院電気通信学研究科	1		理化学研究所	1
	金沢大学がん研究所	1		ハーバード医学校（アメリカ）	1
	京都大学大学院理学研究科	1		イリノイ大学（アメリカ）	1
	国立天文台	12		社会科学高等研究院（フランス）	1
	理化学研究所	5	Ecole Nationale des Ponts et Chaussées（フランス）	1	

研究指導受託（平成13年度）

受入研究科等	在学中の大学名	学生人数	受入研究科等	在学中の大学名	学生人数
教育学研究科	ペンシルベニア大学（アメリカ）	1	医学系研究科	弘前大学大学院医学研究科	1
総合文化研究科	千葉大学大学院自然科学研究科	4		東北大学大学院医学系研究科	1
	東京工業大学大学院社会理工学研究科	1		筑波大学大学院医学研究科	1
	名古屋大学大学院理学研究科	1		群馬大学大学院医学系研究科	2
	イェール大学（アメリカ）	2		千葉大学大学院医学研究科	2
理学系研究科	東北大学大学院情報科学研究科	1		東京医科歯科大学大学院医学系研究科	2
	茨城大学大学院理工学研究科	1		東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	1
	群馬大学大学院医学研究科	1		新潟大学大学院医学研究科	2
	総合研究大学院大学数物科学研究科	1		新潟大学大学院医歯学総合研究科	2
	名古屋大学大学院理学研究科	3		富山医科薬科大学大学院医学系研究科	1
	京都大学大学院理学研究科	1		信州大学大学院医学研究科	2
	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科	2		浜松医科大学大学院基礎看護研究科	1
	大阪大学大学院理学研究科	2		岐阜大学大学院医学研究科	1
工学系研究科	広島大学大学院理学研究科	1		京都大学大学院医学研究科	4
	横浜国立大学大学院工学研究科	1		京都大学大学院理学研究科	1
	長岡技術科学大学大学院工学研究科	1		大阪大学大学院医学系研究科	3
	山口大学大学院理工学研究科	1		広島大学大学院医学研究科	1
	国立清華大学（中国（台湾））	1		福島県立医科大学	1
農学生命科学研究科	東北大学大学院農学研究科	1	薬学系研究科	京都府立医科大学	1
	山形大学大学院医学系研究科	1		自治医科大学	3
	筑波大学大学院生物科学研究科	1		兵庫医科大学	1
	山口大学大学院連合獣医学研究科	2		お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	1
	名古屋大学大学院薬学研究科	2		京都大学大学院医学系研究科	1
	日本大学大学院生物資源科学研究科	1		名古屋大学大学院薬学研究科	7
	順天堂大学大学院医学研究科	1		昭和薬科大学大学院薬学研究科	1
	東亜大学大学院総合学術研究科	1		瀋陽薬科大学（中国）	1

受入研究科等	在学中の大学名	学生人数
数理科学研究科	京都大学大学院理学研究科	1
新領域創成科学研究科	千葉大学大学院自然科学研究科	1
研究科	神戸大学大学院自然科学研究科	1
	東京薬科大学生命科学研究所	1
情報理工学系	東京農工大学大学院工学研究科	5
研究科	北陸先端科学技術大学院情報科学研究科	1
	京都大学大学院情報学研究科	2

(6) 平成13年度 学位論文審査協力依頼件数

(論 文 件 数)

平成14年4月15日

研 究 科	大 学						国 立 の 研究 所 等 へ		国 立 以 外 の 研究 所 等 へ		計	
	国 立		公 立		私 立		博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士
	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士						
人 文 社 会 系 研 究 科	8		2		21		1		2		34	0
教 育 学 研 究 科					1						1	0
法 学 政 治 学 研 究 科	1						1				1	0
経 済 学 研 究 科											1	0
総 合 文 化 研 究 科	12		2		15		4		3		36	0
理 学 系 研 究 科	27		2		9		32		2		72	0
工 学 系 研 究 科	16				12		4		5		37	0
農 学 生 命 科 学 研 究 科	18				8		3		12		41	0
医 学 系 研 究 科											0	0
薬 学 系 研 究 科	1										1	0
数 理 科 学 研 究 科	10		1		1						12	0
新 領 域 創 成 科 学 研 究 科											0	0
計	93	0	7	0	67	0	45	0	24	0	236	0

(教 員 人 数)

実施研究科	延べ人数	協力教員等の所属大学・研究所等名	実施研究科	延べ人数	協力教員等の所属大学・研究所等名
人文社会系研究科	1	茨城大学人文学部	人文社会系研究科	1	東洋医学総合研究所
	1	大阪大学大学院文学研究科	教育学研究科	1	立教大学法学部
	1	お茶の水女子大学文教育学部	法学政治学研究科	1	千葉大学法経学部
	1	京都大学大学院経済学研究科	経済学研究科	1	国立環境研究所環境健康部
	1	熊本大学名誉教授	総合文化研究科	1	九州大学大学院農学研究院
	1	東京外国語大学外国語学部		1	九州大学大学院理学研究院
	1	名古屋大学大学院文学研究科		1	埼玉工業大学大学院工学研究科
	1	一橋大学大学院経済学研究科		1	筑波大学大学院経営・政策科学研究科
	1	大阪市立大学大学院文学研究科		1	東京外国語大学外国語学部
	1	東京都立大学人文学部教授		1	東京工業大学外国語研究教育センター
	1	亜細亜大学経済学部		1	東京工業大学大学院総合理工学研究科
	1	大妻女子大学人間関係学部		1	名古屋大学理学部
	1	川村学園女子大学人間文化学部		1	一橋大学大学院言語社会学研究科
	1	岐阜聖徳学園大学経済情報学部		1	北海道大学電子科学研究所
	2	慶應義塾大学経済学部		1	北海道大学理学部
	1	慶應義塾大学理工学部		1	琉球大学農学部
	2	駒澤大学文学部		1	大阪市立大学理学部
	1	成蹊大学文学部		1	情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科
	1	成城大学文芸学部		1	北里大学大学院医療系研究科
	1	ソウル大学校人文大学中国文学科		1	慶應義塾大学理工学部
	1	大正大学文学部		1	中部大学人文学部
	1	中央大学文学部		1	チュウリツヒ大学医学部
	1	東京国際大学国際関係学部		1	東洋大学文学部
	1	日本女子大学文学部		1	獨協医科大学医学部
	1	日本大学文理学部		2	日本女子大学文学部
	1	花園大学文学部		1	日本大学法学部
	1	早稲田大学教育学部		1	北京大都市・環境科学系
	2	早稲田大学文学部		1	放送大学教養学部
	1	国立歴史民俗博物館		1	武蔵大学人文学部
	1	東京大学名誉教授		1	明治学院大学法学部

実施研究科	延べ人数	協力教員等の所属大学・研究所等名	実施研究科	延べ人数	協力教員等の所属大学・研究所等名
工学系研究科	1	横浜国立大学大学院工学研究科	農学研究科	1	山形大学理学部
	2	慶應義塾大学理工学部		1	岩手大学農学部
	1	工学院大学工学部		1	東海大学海洋学部
	2	高知工科大学工学部		1	東京薬科大学生命科学部
	1	順天堂大学医学部		2	日本獣医畜産大学獣医畜産学部
	1	拓殖大学国際開発学部		3	日本大学生物資源学部
	1	千葉工業大学工学部		1	明治大学農学部
	1	東京工芸大学工学部		1	国立科学博物館動物研究部
	1	東京理科大学基礎工学部		1	産業医学総合研究所人間工学特性研究部
	2	日本大学理工学部		1	農林水産省林野庁森林整備部
	2	産業技術総合研究所		3	独立行政法人森林総合研究所企画調整部
	1	アジア科学教育経済発展機構		1	独立行政法人国立環境研究所環境健康研究領域
	1	海上技術安全研究所		1	独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所
	1	東京大学名誉教授		1	農業技術研究機構九州沖縄農業研究センター
	2	日本原子力研究所		1	理化学研究所遺伝子材料開発室
農学生命科学研究科	1	岩手大学農学部		1	理化学研究所ゲノム科学総合研究センター
	1	宇都宮大学農学部		1	理化学研究所筑波研究所
	1	京都大学大学院農学研究科		1	理化学研究所微生物分類室
	1	静岡大学農学部	薬学系研究科	1	北海道大学大学院薬学研究科
	1	筑波大学社会学系	数理学研究科	1	大阪大学大学院理学研究科
	1	筑波大学農林学系		1	お茶の水女子大学理学部
	1	東京水産大学水産学部		2	京都大学数理解析研究所
	1	東京農工大学農学部		1	京都大学理学研究科
	1	東北大学大学院生命科学研究所		1	筑波大学数学系
	2	長崎大学水産学部		1	筑波大学電子・情報工学系
	1	名古屋大学地球水循環研究センター		1	北海道大学大学院理学研究科
	1	北海道大学大学院獣医学研究科		1	東京都立大学理学部
	1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター		1	青山学院大学理工学部
	2	三重大学生物資源学部			

(7) 年度別学位授与状況 (課程博士)

1/3

学位	年度	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
文学博士	当該年度	0	0	1	2	2	1	2	2	1	0	0	2	0	1	0	7	0	1
	累計	0	0	1	3	5	6	8	10	11	11	11	13	13	14	14	21	21	22
教育学博士	当該年度	0	0	0	1	2	1	0	2	1	0	5	0	1	1	3	0	2	2
	累計	0	0	0	1	3	4	4	6	7	7	12	12	13	14	17	17	19	21
法学博士	当該年度	3	5	4	4	7	7	3	4	5	6	7	5	6	2	1	6	7	4
	累計	3	8	12	16	23	30	33	37	42	48	55	60	66	68	69	75	82	86
経済学博士	当該年度	0	0	0	5	1	3	5	2	0	1	0	0	0	1	2	1	0	1
	累計	0	0	0	5	6	9	14	16	16	17	17	17	17	18	20	21	21	22
社会学博士	当該年度	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	3	0	1	2	0	1	0
	累計	0	1	1	1	2	3	3	3	4	5	5	8	8	9	11	11	12	12
学術博士	当該年度																		
理学博士	当該年度	16	43	35	45	41	43	52	42	45	35	54	65	64	86	91	76	87	99
	累計	16	59	94	139	180	223	275	317	362	397	451	516	580	666	757	833	920	1,019
工学博士	当該年度	6	25	20	25	26	33	25	49	46	59	89	83	111	101	95	80	109	100
	累計	6	31	51	76	102	135	160	209	255	314	403	486	597	698	793	873	982	1,082
農学博士	当該年度	2	21	20	23	23	21	23	21	26	26	41	36	36	47	29	52	39	37
	累計	2	23	43	66	89	110	133	154	180	206	247	283	319	366	395	447	486	523
薬学博士	当該年度		11	5	14	7	10	10	4	18	12	18	23	21	24	19	16	25	25
	累計		11	16	30	37	47	57	61	79	91	109	132	153	177	196	212	237	262
医学博士	当該年度		13	33	31	43	58	61	69	52	59	69	49	41	32	21	20	17	12
	累計		13	46	77	120	178	239	308	360	419	488	537	578	610	631	651	668	680
保健学博士	当該年度													2	3	3	2	5	3
	累計													2	5	8	10	15	18
合計	当該年度	27	119	118	150	153	178	181	195	195	199	283	266	282	299	266	260	292	284
	累計	27	146	264	414	567	745	926	1,121	1,316	1,515	1,798	2,064	2,346	2,645	2,911	3,171	3,463	3,747

学位	年度										平成 元					
	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59		60	61	62	63	
文学博士	1	3	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	1	3	2	0
当該年度 累計	23	26	26	26	28	28	28	30	30	30	30	31	32	35	37	37
教育学博士	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	0	3	1
当該年度 累計	21	23	23	23	23	24	24	25	25	25	25	26	29	29	32	33
法学博士	8	5	4	1	5	5	2	4	5	0	4	1	5	1	3	4
当該年度 累計	94	99	103	104	109	114	116	120	125	125	129	130	135	136	139	143
経済学博士	0	1	0	1	0	0	0	1	2	2	4	10	3	4	5	9
当該年度 累計	22	23	23	24	24	24	24	25	27	29	33	43	46	50	55	64
社会学博士	0	1	0	0	1	0	1	1	1	2	1	3	0	1	2	3
当該年度 累計	12	13	13	13	14	14	15	16	17	19	20	23	23	24	26	29
学術博士													3	3	4	5
当該年度 累計													3	6	10	16
理学博士	100	100	101	101	111	105	116	96	86	106	126	103	102	110	135	125
当該年度 累計	1,119	1,219	1,320	1,421	1,532	1,637	1,753	1,849	1,935	2,041	2,167	2,270	2,372	2,482	2,617	2,742
工学博士	114	111	84	115	116	122	114	108	94	88	101	97	131	140	149	164
当該年度 累計	1,196	1,307	1,391	1,506	1,622	1,744	1,858	1,966	2,060	2,148	2,249	2,346	2,477	2,617	2,766	2,930
農学博士	42	46	50	46	38	53	57	59	53	56	59	53	71	74	65	86
当該年度 累計	565	611	661	707	745	798	855	914	967	1,023	1,082	1,135	1,206	1,280	1,345	1,431
薬学博士	27	27	19	24	23	26	21	28	18	23	25	21	22	24	31	23
当該年度 累計	289	316	335	359	382	408	429	457	475	498	523	544	566	590	621	644
医学博士	12	16	13	8	12	20	23	18	12	18	18	23	29	32	34	32
当該年度 累計	692	708	721	729	741	761	784	802	814	832	850	873	902	934	968	1,000
保健学博士	3	5	6	6	3	6	6	6	8	5	7	7	4	10	13	8
当該年度 累計	21	26	32	38	41	47	53	59	67	72	79	86	90	100	113	121
合計	307	317	277	302	311	338	340	324	279	300	345	320	374	402	446	460
当該年度 累計	4,054	4,371	4,648	4,950	5,261	5,599	5,939	6,263	6,542	6,842	7,187	7,507	7,881	8,283	8,729	9,189

研究科	学位	年度											
		平成3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
人文社会系	博士(文学)	当該年度 6	14	30	24	21	24	24	28	30	30	30	
	博士(心理学)	累計 6	20	50	74	95	119	143	171	201	231	261	
	博士(社会学)	当該年度 累計	1 1	1 2	4 6	2 8	1 9	2 11	2 13	2 15	2 17	2 19	
研究科	博士(社会心理学)	当該年度 累計				8	13	16	20	23	28	30	
	博士(社会情報学)	当該年度 累計				1	4	5	7	7	8	8	
	博士(社会学)	当該年度 累計									3	3	
教育学	博士(教育学)	当該年度 累計	2	2	4	6	4	6	3	5	10	4	
	博士(法学)	当該年度 累計	7	8	14	1	3	5	6	8	4	7	
	博士(社会学)	当該年度 累計	7	8	14	15	18	21	26	32	40	44	
社会学	博士(社会心理学)	当該年度 累計	2	2	3	5							
	博士(社会情報学)	当該年度 累計	0	0	1	2							
	博士(社会学)	当該年度 累計	0	0	1	3							
経済学	博士(経済学)	当該年度 累計	3	11	6	7	13	7	14	10	6	9	
	博士(学術)	当該年度 累計	3	14	20	27	40	47	53	67	77	83	
	博士(理学)	当該年度 累計	4	8	9	19	19	30	55	44	46	52	
総研	博士(理学)	当該年度 累計	4	12	21	40	59	89	144	188	234	286	
	博士(工学)	当該年度 累計	2	0	1	2							
	博士(社会学)	当該年度 累計	2	2	3	5							
理学	博士(理学)	当該年度 累計	129	132	126	152	144	188	161	189	195	188	
	博士(工学)	当該年度 累計	129	261	387	539	683	871	1,032	1,221	1,416	1,802	
	博士(学術)	当該年度 累計	151	175	175	240	222	231	254	272	248	269	
工学	博士(学術)	当該年度 累計	151	326	501	741	963	1,194	1,448	1,720	1,968	2,509	
	博士(工学)	当該年度 累計	0	0	1	6	8	4	6	4	2	5	
	博士(社会学)	当該年度 累計	0	0	1	7	15	19	25	29	31	43	
農学生命科学研究科	博士(農学)	当該年度 累計	72	81	75	81	78	95	93	94	96	113	
	博士(獣医学)	当該年度 累計	72	153	228	309	387	482	575	669	765	882	
	博士(医学)	当該年度 累計	0	1	11	18	23	20	27	19	27	22	
医学	博士(医学)	当該年度 累計	39	48	42	67	62	92	101	134	137	153	
	博士(保健学)	当該年度 累計	39	87	129	196	258	350	451	585	722	892	
	博士(薬学)	当該年度 累計	16	4	5	13	10	17	21	24	17	13	
薬学	博士(薬学)	当該年度 累計	16	20	25	38	48	65	86	110	127	139	
	博士(薬学)	当該年度 累計	29	32	40	40	44	40	38	46	33	39	
	博士(薬理学)	当該年度 累計	29	61	101	141	185	225	263	309	342	381	
数理学	博士(数理学)	当該年度 累計		12	16	11	24	27	21	14	35	27	
	博士(数理学)	当該年度 累計		12	28	39	63	90	111	125	160	184	
	博士(数理学)	当該年度 累計	460	522	549	699	688	791	826	901	894	954	
合計	当該年度 累計	460	982	1,531	2,230	2,918	3,709	4,535	5,436	6,330	7,303		
		当該年度 累計	460	982	1,531	2,230	2,918	3,709	4,535	5,436	6,330	7,303	

(注) 平成7年度に人文科学研究科と社会学研究科を統合し、人文社会学研究科となった。

(8) 年度別学位授与状況 (論文博士)

1/3

学位	年度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
文学博士	当該年度	0	0	0	1	6	5	1	7	5	6	2	1	10	9	4	14	5	12
	果計	0	0	0	1	7	12	13	20	25	31	33	34	44	53	57	71	76	88
教育学博士	当該年度	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	3	1	4	2	2	2	1	1
	果計	0	0	0	0	0	0	2	3	4	5	8	9	13	15	17	19	20	21
法学博士	当該年度	0	0	0	0	0	2	1	0	5	1	0	0	0	1	3	1	0	1
	果計	0	0	0	0	0	2	3	3	8	9	9	9	9	10	13	14	14	15
経済学博士	当該年度	0	0	0	0	1	9	2	8	12	3	1	5	1	4	3	4	3	5
	果計	0	0	0	0	1	10	12	20	32	35	36	41	42	46	49	53	56	61
社会学博士	当該年度	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	1	2	0	0
	果計	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	4	5	5	5	6	8	8	8
学術博士	当該年度																		
理学博士	当該年度	1	2	14	20	38	55	44	51	39	44	39	53	47	46	43	50	51	46
	果計	1	3	17	37	75	130	174	225	264	308	347	400	447	493	536	586	637	683
工学博士	当該年度	0	1	2	19	32	70	67	93	72	72	69	98	91	98	103	102	91	120
	果計	0	1	3	22	54	124	191	284	356	428	497	595	686	784	887	989	1,080	1,200
農学博士	当該年度	0	1	6	13	16	40	56	44	60	70	56	48	42	51	48	71	46	74
	果計	0	1	7	20	36	76	132	176	236	306	362	410	452	503	551	622	668	742
薬学博士	当該年度	0	3	2	6	24	18	22	30	24	22	33	43	23	22	34	18	35	29
	果計	0	3	5	11	35	53	75	105	129	151	184	227	250	272	306	324	359	388
医学博士	当該年度	0	3	31	43	56	81	84	53	84	77	133	121	36	34	36	37	59	75
	果計	0	3	34	77	133	214	298	351	435	512	645	766	802	836	872	909	968	1,043
保健学博士	当該年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	3
	果計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	4	4	7
合計	当該年度	1	10	55	102	173	280	279	288	304	296	337	372	256	268	277	301	291	366
	果計	1	11	66	168	341	621	900	1,188	1,492	1,788	2,125	2,497	2,753	3,021	3,298	3,599	3,890	4,256

2/3

学位	年度	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元	2	3
文学博士	当該年度	2	3	8	9	5	4	3	3	7	9	9	4	4	9	2
	果計	90	93	101	110	115	119	122	125	132	141	150	154	158	167	169
教育学博士	当該年度	1	0	2	6	3	2	1	1	2	4	0	3	2	6	1
	果計	22	22	24	30	33	35	36	37	39	43	43	46	48	54	55
法学博士	当該年度	1	0	0	1	2	1	0	0	2	3	2	1	3	2	0
	果計	16	16	16	17	19	20	20	20	22	25	27	28	31	33	33
経済学博士	当該年度	2	6	1	1	4	8	3	4	3	5	7	3	6	6	1
	果計	63	69	70	71	75	83	86	90	93	98	105	108	114	120	121
社会学博士	当該年度	0	1	0	2	0	2	1	0	3	2	3	0	0	1	0
	果計	8	9	9	11	11	13	14	14	17	19	22	22	22	23	23
学術博士	当該年度												1	5	4	0
	果計												1	6	10	10
理学博士	当該年度	74	44	46	50	47	39	69	48	40	44	55	50	50	43	15
	果計	757	801	847	897	944	983	1,052	1,100	1,140	1,184	1,239	1,289	1,339	1,382	1,397
工学博士	当該年度	108	115	120	115	141	132	105	130	195	196	149	137	131	194	34
	果計	1,308	1,423	1,543	1,658	1,799	1,931	2,036	2,166	2,361	2,557	2,706	2,843	2,974	3,168	3,202
農学博士	当該年度	62	62	65	70	86	64	60	108	118	146	95	122	83	80	31
	果計	804	866	931	1,001	1,087	1,151	1,211	1,319	1,437	1,583	1,678	1,800	1,883	1,963	1,994
薬学博士	当該年度	30	21	27	27	34	41	27	51	52	34	27	25	36	42	11
	果計	418	439	466	493	527	568	595	646	698	732	759	784	820	862	873
医学博士	当該年度	47	63	86	82	118	83	101	95	101	88	130	81	84	87	28
	果計	1,090	1,153	1,239	1,321	1,439	1,522	1,623	1,718	1,819	1,907	2,037	2,118	2,202	2,289	2,317
保健学博士	当該年度	1	2	3	3	1	7	10	4	15	3	5	4	11	3	1
	果計	8	10	13	16	17	24	34	38	53	56	61	65	76	79	80
合計	当該年度	328	317	358	366	441	383	380	444	538	534	482	431	415	477	124
	果計	4,584	4,901	5,259	5,625	6,066	6,449	6,829	7,273	7,811	8,345	8,827	9,258	9,673	10,150	10,274

研究科	学位	平成											
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
人文社会科学	博士(文学)	13	11	13	11	14	18	20	18	12	13	23	
	当該年度 果	13	24	37	48	62	80	100	118	130	143	166	
	博士(心理学)		1	1	0	2	1	0	1	1	0	0	
	当該年度 果		1	2	2	4	5	5	6	7	7	7	
研究科	博士(社会学)		1			1	1	1	0	1	0	1	
	当該年度 果		1			10	11	12	12	13	13	14	
	博士(社会心理学)					0	0	0	0	0	0	0	
	当該年度 果					1	1	1	1	1	1	1	
教育研究	博士(教育学)	2	9	4	1	2	6	1	1	3	4	5	
	当該年度 果	2	11	15	16	18	24	25	26	29	33	38	
	博士(法学)	1	2	2	3	0	6	1	1	1	2	1	
	当該年度 果	1	3	5	8	8	14	15	16	17	19	20	
社会科学	博士(社会学)	6	1	1	1								
	当該年度 果	6	7	8	9								
	博士(社会心理学)												
	当該年度 果												
経済学研究	博士(経済学)	5	7	9	6	6	5	3	2	2	3	3	
	当該年度 果	5	12	21	27	33	38	41	43	45	48	51	
	博士(化学)	2	4	6	3	9	6	8	10	7	12	8	
	当該年度 果	2	6	12	15	24	30	38	48	55	67	75	
理学	博士(理学)	34	46	53	44	36	45	36	36	33	22	25	
	当該年度 果	34	80	133	177	213	258	294	330	363	385	410	
	博士(工学)	138	187	187	207	204	181	161	200	121	133	110	
	当該年度 果	138	325	512	719	923	1,104	1,265	1,465	1,586	1,719	1,829	
農学研究	博士(農学)	83	107	98	84	105	71	52	59	49	62	42	
	当該年度 果	83	190	288	372	477	548	600	659	708	770	812	
	博士(獣医学)			6	22	13	5	31	11	13	18	9	
	当該年度 果			6	28	41	46	77	88	101	119	128	
医学研究	博士(医学)	76	125	100	91	114	105	113	97	91	51	49	
	当該年度 果	76	201	301	392	506	611	724	821	912	963	1,012	
	博士(保健学)	1	6	7	2	8	7	8	5	9	6	3	
	当該年度 果	1	7	14	16	24	31	39	44	53	59	62	
薬学研究	博士(薬学)	26	34	31	34	44	37	43	33	43	28	19	
	当該年度 果	26	60	91	125	169	206	249	282	325	353	372	
	博士(数理学)		4	15	4	7	3	1	2	3	3	1	
	当該年度 果		4	19	23	30	33	34	36	39	42	43	
合計	当該年度 果	387	544	533	514	565	497	479	476	389	358	305	
	累計	387	931	1,464	1,978	2,543	3,040	3,519	3,995	4,384	4,742	5,047	

(注) 平成7年度に人文科学研究科と社会学研究科を統合し、人文社会科学系研究科となった。

≡ 掲示板 ≡

東京大学学術研究奨励資金による国際交流助成事業の募集について

下記要綱のとおり募集しますので、平成14年7月26日（金）までに研究協力部国際交流課国際学術掛あて提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局の担当掛へお問い合わせください。

1. 平成15年度東大シンポジウム開催経費助成事業
 2. 平成14年度国際交流推進経費助成事業（後期分）
 3. 平成14年度若手研究者派遣経費助成事業（後期分）
- 各事業の申請書類は次のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

平成15年度東京大学学術研究奨励資金による東大シンポジウム募集要項

1. 趣 旨

部局間にまたがるやや規模の大きい学際的な国際研究集会を「東大シンポジウム」として開催することとし、そのために必要な経費を学術研究奨励資金から補助するものである。
2. 応募資格

本学の教授、助教授、講師及び助手とする。
3. 対象分野

人文、社会及び自然科学の全分野
4. 補助の対象となる要件
 - (1) 特定の主題について、内外の研究者が学術的発表及びそれに関する討議を行い、その分野の研究を推進することを目的とするもの
 - (2) 日本側の主要メンバーは、本学教官で、2以上の部局の教官が参加するもの
 - (3) 主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるもの
 - (4) 平成15年度中に開催されるもの
 - (5) 主たる経費の出途が学術研究奨励資金によるもの
5. 補助の対象となる経費
 - (1) 外国人招待講演者の旅費及び滞在費並びに外国人一般参加者の滞在費
 - (2) 国内の学外招待講演者の旅費
 - (3) 招待講演者の講演謝金（主として外国人参加者）
 - (4) シンポジウム開催に直接必要な印刷（製本）費、通信運搬費、会場借料等

注）本学の教官は招待講演者とみなされないので講演謝金は支給されない。また、原則として、旅費も支給されない。
6. 補助額及び採択予定件数

1件の補助額は、500万円程度を限度とし、採択件数は、3～4件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、「平成15年度東大シンポジウム開催経費申請書」（別紙様式1）一部を、当該シンポジウムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を経由後、平成14年7月26日（金）までに総長宛提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考方法及び採否の通知等

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否は、平成14年9月下旬頃までに、開催責任者の部局長宛通知する。

9. 報告書の提出

開催責任者は、シンポジウム終了後1ヵ月以内に「平成15年度東大シンポジウム実施報告書」一部を所属部局長を経由し速やかに総長宛提出すること。（様式については採択通知に添付する。）

平成14年度（後期分）学術研究奨励資金による国際交流推進経費募集要項

1. 趣 旨

本学と海外の学術研究機関が行う大学間・部局間の組織的な交流を一層促進することを目的に、教官の派遣及び招へいについて、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。
2. 応募資格

本学の教授、助教授、講師及び助手
3. 実施期間

平成14年10月から平成15年3月までの間に実施されるもの。
4. 助成経費

本学の教官の派遣旅費及び外国人研究者の招へい旅費とする。原則として10日以内とする。

派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

招へい旅費：招へいする外国人研究者の本国における研究機関から本学までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。
5. 助成限度額

1件当たり、200万円を限度とする。
6. 申請手続

別紙様式1により、平成14年7月1日（月）から平成14年7月26日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数場合は順位を付した上で提出のこと。

7 . 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成14年9月下旬頃までに、所属部局長あて通知する。

8 . 報告書の提出

別紙様式2により、交流実施後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

9 . 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

平成14年度（後期分）学術研究奨励資金による若手研究者派遣経費募集要項

1 . 趣 旨

本学における学術研究の将来を担う若手研究者が、海外の優れた大学等学術研究機関を訪問し、発想や研究方法の異なる外国人研究者との交流によって学問的刺激を受けることにより、国際的視野を持つ研究者の養成に資することを目的とする。このため若手研究者の派遣に対し、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

2 . 申請資格

平成14年4月1日現在年齢35歳未満の本学の教官。
ただし、前回採択された者を除く。

3 . 期 間

平成14年10月から平成15年3月までの間に派遣されるもので、原則として15日以内とする。

4 . 助成経費及び助成件数

派遣旅費を助成し、助成件数は、15件程度を予定している。

派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

5 . 申請手続

別紙様式1により、平成14年7月1日（月）から平成14年7月26日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付した上で提出のこと。

6 . 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成14年9月下旬頃までに、所属部局長あて通知する。

7 . 報告書の提出

別紙様式2により、交流計画の終了後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

8 . 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

アジア大学演習林シンポジウム

「アジアにおける森林生態系の持続可能性と大学演習林の役割 - Role of University Forests for Sustainability of Asian Forest Ecosystems」の開催

日 時：平成14年8月6日（火） 9時～15時

場 所：東京大学農学部3号館4階 大会議室

シンポジウムの趣旨と参加予定国は次の通りです。

奮ってご参加下さい。

人間活動の拡大によって森林生態系が劣化、消失していることは、世界的に深刻な環境問題のひとつであり、人口密度が高いアジア諸国においては特に問題となっています。一方、森林生態系は幅広い環境保全機能を持っており、地球規模での気候の調節、土壌や水資源の保全、生物多様性と遺伝子資源の保全などの多様な役割を果たしています。したがって森林生態系の持続的な管理は、人類の持続的な発展に決して欠かすことができないと考えられます。このような状況において、各国の大学演習林は研究と教育とを通じて、現在また将来にわたって、どのような役割を担うべきでしょうか。

このシンポジウムでは、アジアの大学演習林が、過去・現在・未来におけるアジアの森林生態系保全にどのような貢献をしてきたか、また貢献していくべきかを議論し、各国演習林の情報の交換と共同研究への第一歩として、大学演習林が森林生態系の持続的管理で主導的役割を担っていくために必要な大学演習林間のより緊密なネットワーク作りへの提案を各国から行います。

参加予定国：韓国（ソウル大学校）、台湾（台湾大学）、中国（東北林業大学）、マレーシア（マレーシアアボラ大学）、インドネシア（ガジャマダ大学）タイ（カセサート大学）

参 加 費：1,000円（プロシーディング等実費）

主 催：東京大学演習林

<http://www.uf.a.u.tokyo.ac.jp/>

申し込み・問い合わせ先：

〒415 0304 静岡県賀茂郡南伊豆町加納457

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 齊藤陽子

TEL：0558 62 0021 FAX：0558 62 3170

e mail：yoko@uf.a.u.tokyo.ac.jp

FAXまたはメールにて平成14年6月30日までにお送りください。

（大学院農学生命科学研究科附属演習林）

大学院経済学研究科修士課程の学生募集について

平成15(2003)年度東京大学大学院経済学研究科修士課程の入学試験は、次のとおり実施される。

1. 受入予定人員 108名
2. 出願期間 平成14年8月19日(月)~8月23日(金)
(郵送の場合、8月22日(木)の消印まで有効)
3. 試験期日 (1) 筆記試験 平成14年9月12日(木)
(2) 口述試験 平成14年9月27日(金)

募集要項は、大学院経済学研究科・経済学部大学院掛で配付中である。

(大学院経済学研究科・経済学部)

教養学部美術博物館のお知らせ

教養学部美術博物館では、美術評論家、神奈川近代美術館主任学芸員水沢勉氏をお迎えして、次の通り講演会を開催いたします。今回はパウル・クレ-と日本の出会いについて講演の予定です。多数ご来聴下さいますよう、ご案内申し上げます。

演題：「極東へ パウル・クレ-と日本の出会い」

講師：水沢 勉 氏

(美術評論家、神奈川近代美術館主任学芸員)

日時：平成14年6月24日(月)

午後4時30分より

会場：教養学部12号館1階、1214教室

問い合わせ先：教養学部美術博物館

TEL 03 5454 6139

(大学院総合文化研究科・教養学部)

「教養学部報」第457(6月5日)号の発行

教官による、学生のための学内新聞

一井信吾：ウイルス流行警報発令中！コンピュータ・ウイルスの傾向と対策

竹内信夫：新しい図書館の話をしよう厳肅に、そして静肅に

丹野義彦：学生相談所協力教官を知っていますか？

後藤則行：環境問題への学際的対応

私のいち押し

渡會公治：美しく立つ

鳥居寛之：二千元札

草光俊雄：W&Nで描く

白石潤一：突破せよ！

今橋映子：たかがガイド・されどガイド

本と美術展への道しるべ

里見大作：駒場・駒場野・駒場が丘

時に沿って

岡山 裕：社会科学と地域研究の間で

ある夏の思い出

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

東京大学地震研究所一般公開と公開講義

地球からのメッセージをとらえる

東海地震・富士山は今...

東京大学地震研究所では、一般の方々や学生・生徒の皆さんを対象として、地球科学に関する最先端の研究に触れていただくとともに私共の研究活動についてご理解いただけますよう、一般公開と公開講義を下記の要領で行ないます。皆様のご来訪を心よりお待ちしております。

一般公開

【日時】平成14年7月25日(木)、26日(金)

10:00~16:30

【場所】東京大学地震研究所(文京区弥生1 1 1)

駐車場がありませんので、お車での来場はご遠慮ください。

【展示内容】地震や火山噴火の仕組み、災害の防止等に関する研究について、最新の成果をコンピュータ映像やパネル展示でわかりやすく説明いたします。毎年好評の実験コーナーや起振車による地震動の体験コーナーに加えて、今年は東海地震・富士山関係の特設コーナーも開設する予定です。

公開講義

【日時】平成14年7月25日(木)

14:40~17:00(開場14:00)

【場所】東京大学安田講堂(文京区本郷7 3 1)

駐車場がありませんのでお車での来場はご遠慮ください。

【定員】800名(申込先着順)。受講無料。

【申込方法】郵送とe mailによる申込みを受け付けています。

郵送の場合 往復葉書に住所・氏名・年齢・職業(できれば会社・学校名など)・電話番号を明記し、返信面には返送先を記入の上、7月12日(必着)までにお申し込み下さい。

e mailの場合 住所・氏名・年齢・職業(できれば会社・学校名など)・電話番号・e mailアドレスを明記し、7月12日(必着)までにお申し込み下さい。

【申込先】東京大学地震研究所庶務掛公開講義係 1

郵送 〒113 0032 文京区弥生1 1 1

e mail openlec@eri.u.tokyo.ac.jp

【その他】受講資格は問いませんが、中学生以上の方を

想定した内容です。

《公開講義プログラム》

- 14 : 00 開場
 14 : 40 ~ 14 : 50 主催者挨拶
 14 : 50 ~ 15 : 50 “活火山”富士の素顔(藤井敏嗣教授)
 15 : 50 ~ 16 : 00 休憩
 16 : 00 ~ 17 : 00 パーチャルシティに地震を起こす！
 地震シミュレーションの可能性
 (堀 宗朗教授)

《講義内容紹介》

“活火山”富士の素顔 藤井敏嗣教授
 端正な富士山もかつては激しい噴火を続け、まき散らした火山灰で関東の大地をつくりあげました。そして今、地下では次の噴火の準備が着々と進められています。富士山のこれまでの活動と現在の状況の解説から、火山としての富士山の素顔に触れて頂きます。

パーチャルシティに地震を起こす！ 堀 宗朗教授
 都市を丸ごとコンピュータ上に再現したパーチャルシティに、断層から地震を起こして建物の揺れをシミュレートします。建物一つ一つはもちろん、ライフラインや都市全体の被害の予測がこれまで以上に正確にできるようになります。

一般公開と公開講義の問い合わせ先
 東京大学地震研究所庶務掛 TEL (03) 5841 5666
 インターネットホームページによる案内
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO.html>
 (地震研究所)

第7回 東京大学史料編纂所 史料学セミナー

今年は、東京大学史料編纂所所蔵の史料に関わる研究成果を中心に開催致します。

【会場】東京大学史料編纂所 2階大会議室
 営団地下鉄丸の内線・都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅より徒歩8分

南北線 東大前駅より徒歩10分

【講義日程】(毎回13:30~16:50)

- 第1回 平成14年10月5日(土)
 山口英男「尾張国郡司百姓等解をめぐって」
 保谷 徹「幕末の軍事外交史料」
- 第2回 平成14年10月19日(土)
 橋本政宣「近世の二条家日記群」
 山家浩樹「禅院文書の流出とその復元」
- 第3回 平成14年11月2日(土)
 馬場 章「後藤四郎兵衛家の三家業 彫金・大判座・分銅座」
 山田邦明「戦国大名の書状」

第4回 平成14年11月16日(土)
 五野井隆史「キリシタン史料とコンフラリア(信心会)」

阿部晶彦・末柄 豊「古記録 実隆公記の修復」

【募集要項】

- 募集対象 日本史学を専攻する大学院生・学生、史料・図書を扱う仕事や歴史教育に従事されている方
 募集人員 約30名(応募者多数の場合は抽選)
 募集期間 平成14年6月17日(月)~7月17日(水)
 応募方法 はがきに住所・氏名・年齢・職業または所属学校・学年・電話番号を記し、下記の申込先までお送りください。(期間内必着)
 受講料 6,800円(全8講分)
 申込先 〒113 0033 東京都文京区本郷7 3 1
 東京大学史料編纂所庶務掛
 電話 03 5841 5943・5944
 講義内容については、ホームページ(http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index_j.html)もご覧ください。
 (史料編纂所)

「GISで環境学習！」シンポジウム

趣 旨：環境問題が大きな社会問題となっている現代において、学校での環境学習は、総合学習が設けられたこともあり、大きな課題となっている。その学習形態は、単に学校の中にとどまらず、公共団体、地域のコミュニティ、ボランティア、市民が連携して学習する活動が試みられており、特に、その連携的環境学習を支える有効な道具として、地理情報システム(GIS)が注目を浴びている。このシンポジウムでは、GISで環境学習を試みている事例を紹介し、学校と様々な人々や団体が連携してGISで環境学習をするという新たな方法を議論する。

日 時：平成14年7月13日(土) 13:00 - 18:00

場 所：東京大学農学部 弥生講堂(参加無料)

プログラム：<http://www.gisa.t.u-tokyo.ac.jp> 掲載

問い合わせ先：東京大学空間情報科学研究センター

(TEL: 03 8541 6225、tkuroiwa@ua.t.u-tokyo.ac.jp)

(空間情報科学研究センター)

夏季データベース講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおり夏季データベース講習会を実施します。データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

[データベース出張講習会]

ご要望に応じた内容で研究室までお伺いします。授業やゼミ等でご活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

申込み先 学術情報リテラシー掛 (22649)
literacy@lib.u.tokyo.ac.jp

[データベース定期講習会]

パソコンを使った実習を中心にしたコースです。ご都合の良い時間帯を選んでどうぞご参加ください。(11:00~12:00、15:00~16:00、18:00~19:00)

参加予約は不要です。時間までに会場に直接お越し下さい。

会場

総合図書館 1階メディアプラザ 講習会コーナー

定員 12名(先着順)

各コースの内容

コース名	内 容
入門コース	<ul style="list-style-type: none"> 授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 OPACなど基本的なデータベースを使った検索実習を中心とします。
実践コース(1) 文献データベース	<ul style="list-style-type: none"> 研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science)	<ul style="list-style-type: none"> 研究に必要な文献を調査・収集するテクニックを習得することを目的とします。 引用索引データベース(Web of Science)の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。

スケジュール(7月~8月)

月	火	水	木	金
7/1	7/2 15:00 16:00 実践(1)	7/3	7/4 11:00 12:00 実践(2)	7/5
7/8 15:00 16:00 入門	7/9	7/10 18:00 19:00 実践(1)	7/11	7/12 15:00 16:00 実践(2)
7/15	7/16 18:00 19:00 入門	7/17	7/18 11:00 12:00 実践(1)	7/19
7/22 18:00 19:00 実践(2)	7/23	7/24 11:00 12:00 入門	7/25	7/26 15:00 16:00 実践(1)
7/29	7/30 11:00 12:00 実践(2)	7/31	8/1 15:00 16:00 入門	8/2
8/5 18:00 19:00 実践(1)	8/6	8/7 15:00 16:00 実践(2)	8/8	8/9 18:00 19:00 入門
8/12	8/13 11:00 12:00 実践(1)	8/14	8/15 18:00 19:00 実践(2)	8/16
8/19 11:00 12:00 入門	8/20	8/21 15:00 16:00 実践(1)	8/22	8/23 11:00 12:00 実践(2)
8/26	8/27 15:00 16:00 入門	8/28	8/29 18:00 19:00 実践(1)	8/30

<http://www.lib.u.tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

(情報基盤センター)

≡ 広報委員会 ≡

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状態でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。
2. 形 式：特に問いません。
3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。
4. 締 切：特に設けません。臨時。
5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。
6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室
03(5841)2031

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室 03(5841)2031

≪ 事務連絡 ≫

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
		(昇 任)	
14. 5. 16	松 井 彰 彦	大学院経済学研究科教授	大学院経済学研究科助教授
"	金 森 修	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科助教授
14. 6. 1	武 田 重 信	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科講師
"	小 西 博 昭	大学院農学生命科学研究科助教授	神戸大学バイオシグナル研究センター助手
		(転 任)	
14. 6. 1	米 田 好 文	大学院理学系研究科教授	北海道大学大学院理学研究科教授
"	良 永 知 義	大学院農学生命科学研究科助教授	独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所病理部病原生物研究室長
"	上 田 完 次	人工物工学研究センター教授	神戸大学工学部教授
		(併 任)	
14. 5. 1	寺 田 実	大学院情報理工学系研究科助教授	電気通信大学電気通信学部助教授
14. 5. 16	中 澤 公 孝	大学院教育学研究科助教授	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所運動機能系障害研究部神経筋機能障害研究室長
14. 6. 1	赤 林 朗	大学院医学系研究科教授	京都大学大学院医学研究科教授
"	一 條 秀 憲	大学院薬学系研究科教授	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生体支持組織学系専攻生体硬組織再生学講座分子情報伝達学分野教授
"	石 井 慶 造	原子力研究総合センター教授	東北大学大学院工学研究科教授

≡ 訃 報 ≡

高橋 詢 名誉教授

本学名誉教授 高橋詢先生は、平成13年10月12日（金）病気のため逝去されました。享年82才でした。



先生は、石川県のご出身で、昭和18年3月東京帝国大学理学部化学科をご卒業後、理学部助手を経て、昭和29年4月に教養学部助教にご着任になり、昭和37年4月に教授に昇任され、昭和55年3月に停年退官されるまで26年間にわたって本学教養学部において化学反応論および一般化学の研究教育に従事されました。ご退官後は平成2年3月まで国際基督教大学教授として同大学大学院理学研究科の創設に尽くされるとともに引き続き化学反応論についてのご研究を続けられました。

先生は昭和44年2月から5月まで大学紛争の極めて困難な時期に教養学部長を勤められ、授業再開のために大変な努力をなさいました。この他、学内において基礎科学科委員長を始めとして多くの責任ある役職を歴任されました。また、学外においても日本化学会理事、欧文誌編集委員長、化学教育誌編集委員長など学会の発展のた

めに尽力なさいました。

先生のご業績は、化学反応の中間体であるフリーラジカルの構造を反応速度論の側面から追究されたものです。先生がご研究を開始された当時、短寿命反応中間体を直接検出することは難しく、先生の方法論はその点で先駆的なものであって、そのご研究は、有機化学反応に光化学反応を取り入れる光有機化学という大きな研究分野へ発展しました。先生はイオンの反応にも興味をもたれ、光・放射線の化学作用、大気化学、生命の起源などの広い領域に化学反応研究という側面から多くの寄与を残されました。

先生は、退官なさるまでご自分で実験をなさり、学生とともに心から実験研究を楽しんでおられました。先生は山を愛し、本学在任中から何回もヒマラヤ山脈などに山行をなさいました。また、本学スキー山岳部の顧問教官でもおられました。先生の化学反応研究への情熱は、先生の白銀のやまなみへの憧れにつながっていたのではないかと思います。ここに先生を偲び、謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院総合文化研究科・教養学部）

中野 実 助教授

東京大学大学院教育学研究科助教授・中野実先生は、闘病生活を送っておられましたが、ご家族の献身的な看護もむなしく、2002年3月30日ご逝去されました。享年五十歳、謹んで哀悼の意を捧げます。



先生は、立教大学文学部心理学科を卒業の後、同大学大学院教育学専攻に進学され、寺崎昌男教授のもとで、近代日本高等教育史の研究を開始されました。博士課程在学中から、東京大学創立百年記念事業後援会（百年史編集業務）に携わり、『東京大学百年史・全十巻』（東京大学出版会、1984年 1987年）編集業務の中心的存在として、その刊行に尽力されました。1981年より1987年までは専任助手として編集刊行事務に従事され、次いで 87年4月からは新設の東京大学史料室助手として勤務されました。1988年4月、立教学院に移られ、図書館大学史資料室、立教学院史編纂室において、嘱託として立教学院史の編集に従事された後、1993年、本学教育学部助手（本学庶務部庶務課・文部事務官併任）として、再び東京大学大学史史料室に勤務され、1999年本学大学院教育学研究科助教授に任ぜられました。

先生は、近年特に「近代日本における帝国大学体制の形成過程」を研究課題としておられました。帝国大学を中心としたわが国の高等教育を、国家体制と緊密な関係を持った全体的な構造として解明する仕事、とりわけ、森有礼文相期の体制創設期に関しては、学会誌などにその研究成果を発表され、高い評価を受けておられます。また、「大学と戦争」という研究課題にも継続して取り組まれ、学徒動員経験者への聞き取り調査などを含めて、実証的な研究を続けておられました。その一端は、史料室の業績となった『東京大学の学徒動員・学徒出陣』（東

京大学出版会、1998年）の編集という形で、発表されております。

先生のそうした実証的な研究を可能にさせたのが、大学史史料室における膨大な公文書の収集・管理業務でした。先生は、わが国初の「大学アーキヴィスト」として、帝国大学以来の本学の歴史的資料に精通され、資料収集・整理保管・利用援助や全国大学の大学資料室関係者、さらに本学事務局にとっても、文字通り、余人をもって換え難い存在でありました。著書『東京大学物語 まだ君が若かったころ』（吉川弘文館・1999年）は、そうした先生の見識を読みやすく解説されたもので、「トウダイという神話性に屋上屋を架すことだけは避け」、「精確、かつ豊かな歴史像」を描くために、「誰もが読後に東京大学史にアクセスできるように」という姿勢に貫かれたものとなっています。

また、先生の大学史編纂に関わる見識は、全国各地の大学において大学史編纂に携わる研究者たちにとって掛け替えの無い拠り所となっており、各地の大学が百年を過ぎ、その記念史編纂事業が続く中で、先生に寄せられる期待は高まるばかりでした。編著書『大学史をつくる』（寺崎昌男、別府昭郎と共編、東信堂、1999年）はそうした期待に応えたものでした。

先生は、あらゆる領域の方々と深く広い交流を保たれ、多くの研究会を立ち上げられ、とりわけ後進の指導においては、まれにみる包容力をもって、温かな指導を続けておられました。酒の席での先生の愉快で豪放な笑いは、多くの人を魅了し、数々の武勇伝を残されましたが、他面、天性の詩人であられた先生は、繊細な感受性を愛され、消えいるような小さな声に耳を傾け続けた方でもありました。先生のご功績とお人柄を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院教育学研究科・教育学部）

大型基礎研究の行方

ワールドカップサッカーが日本と韓国とにまたがって開かれている。日本人なら誰しも日本チームの勝利を願うだろう。先のソルトレークオリンピックで日本はたった2つしかメダルがとれなかったが、多くの人には悔しい思いをしたに違いない。ずっと昔、筆者が中学生だった頃、東大から日本初の人工衛星打ち上げが成功し、国を挙げて大喜びをした。2番目の人工衛星はこのコラムと同じ「たんせい」と名付けられたが、日本独自の技術に世界が目を見張った。日本の経済成長とともに民生技術は数多くの分野で世界一流になったものの、基礎科学の分野では数えるほどしかない。しかしながら、最近、サイエンスの基礎分野で世界が驚く成果を東大が出した。素粒子ニュートリノに質量があるという観測結果である。世界の最先端で活躍する日本チームの存在を素直に誇らしいと思う。

私たちは、2年後に控えた大学法人化後もこのように世界に伍するサイエンスの大型基礎研



究を続け、日本という国の誇り醸成に貢献できればと願っている。しかしながら、現在検討されている大学法人化の枠組みでは、継続的かつ大規模にお金のかかる大型基礎研究のスポン

サーとして国がその責任を全うできるかどうか不明である。法人化以降、私たち研究者は、研究そのものよりむしろ法人の中での資源再分配のために、これまで以上に精力を使い果たすことになるだろう。また、機関横断的な協力関係にある研究者たちとは競争するはめになる。一方、法人運営の立場

からすると、決められた財政の中でお金のかかる大型基礎研究に足を引っ張られていたのでは、法人化の意義が半減する。結局、サイエンスの大型基礎研究は大学法人では衰退せざるを得ないことになる。それでいいのだろうか。

法人化によって確実に研究が発展する分野があり、結果的に教育の質も上がると予想されることを決して否定はしないが、サイエンスの大型基礎研究の推進に限って言えば、これを大学個々に任せる法人化ではなく、しっかりと国が面倒をみることを放棄しない法人化でなくてはならない、と思う。

黒田和明（宇宙線研究所）

（淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

1241

2002年6月12日

東京大学広報委員会

〒113 8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎(3811)3393

e-mail kouhou@ml.adm.u.tokyo.ac.jp

ホームページ http://www.u.tokyo.ac.jp/index_j.html